



年寄りを疎んじるな
「いつか行く道」
じゃけん!



若者を憂うな!
「いつか来た道」
じゃろう!



テングシデ



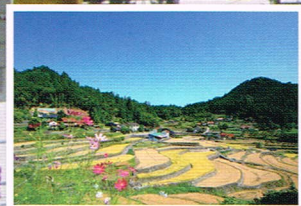
神楽



壬生の花田植



三段峡



井仁の棚田

我が町シリーズ “住んで みんない 山県”

山県支部は、北広島町と安芸太田町からなる人口約 24,800 人、面積約 988 km²の自然豊かで歴史と伝統文化に恵まれた地域に所在します。

三段峡は全国的に有名ですし、井仁の棚田や大朝の名木テングシデは一見の価値があり、史跡では吉川氏関連の城館が数多く残っています。また、伝統文化としては世界無形文化財に指定された「壬生の花田植」がありますし、86 団体もある神楽団が年中大会を開催しています。そして、八幡高原を走る聖湖マラソンや芸北国際スキー場はアウトドア派にとって大変魅力のあるものとなっております。

山県隊友会員 16 名、恵まれた環境のもと、人口減と過疎化に悩む当地域の活性化に貢献したいと日々過ごしております。

2019 年 秋 (第 19 号)

この手紙は、石巻で支援活動中の自衛官に小学低学年の女兒が自ら書いて手渡した有名なもので、ご存じの方も多いと思います。今一度読み返してみてください。

厳しい環境下での自衛隊の支援活動状況は、日々テレビ・ネットで配信されているが、全容は女兒手紙から想定出来る。女兒は被災者の身に沿った献身的で自分を犠牲にした支援活動に、計り知れない程、感謝し感謝の気持ちが抑えきれず、手紙を書いたのしょう。

このような感動話は SNS・雑誌等で多く紹介された。

前記、東日本大震災後、日本各地で様々な災害が発生し、その都度自衛隊の災害

『じえいたいさんへ』
げん気ですか。つなみのせいで、大川小学校のわたしのともだちがみんなしんでしまいました。でも、じえいたいさんががんばっているのわたしががんばります。にほんをたすけてください。いつもおうえんしてありがとうございます。

『じえいたいさんへ』

また、災害は主に津波・原発事故によるもので、自衛隊は最大 10 万人／日を派遣し、遺体・行方不明者の捜査・収容及び犠牲者の生活支援・被災地の復旧復興等多岐に及んだ。さて震災復興復旧支援活動に関する一通の手紙を左記紹介する。

自衛隊の重要な任務の一つである災害派遣は、近年日本において益々大規模化・多様化し、かつ頻発傾向にあります。

さて、2011 年 3 月 11 日、東日本を襲った大震災は死者数約 1 万 5 千人・行方不明者数約 7 千 5 百人に至り、かつて無い程の甚大災害で、岩手・福島・宮城・茨城・千葉の各県海岸部の広域地区が被災した。

「自衛隊の災害派遣に思う」

広島県自衛隊家族会理事 石中 修



被災地各々には、直ちに自衛隊の部隊が派遣され支援活動を開始した。矢野の被災状況も悲惨なもので旧熊野道路は河川の雨水氾濫で川となり、走行中の車が流され 3 名が犠牲になり、1 名が行方不明となった。また、山から流出した土砂流で河川及び多くの民家に被害が出、しばらくの間道路は河川氾濫雨水の川となった。

我が住居地矢野は第 46 普通科連隊が派遣され、家の前の公園に仮設の指揮所を設置、活動の拠点として、被災地の復旧復興を急速に進めた。私は活動の始終を目の当たりにしたので、以降所感を述べる。

・自衛隊の災害派遣活動に対する所感

- (1) 災害派遣活動は即応性・対応性がある。
- (2) 指揮・命令系統の徹底。
- (3) 隊員は礼儀正しく粘り強く苦境に強い。
- (4) 地域住民の対応が繊細で丁寧。

以上

住民の感激事項は以降である。酷暑下での作業に拘わらず服装の乱れがなく挨拶が徹底。住民に飲食姿を見せない。作業に必要な重機・機材の調達を適時実施等々。

復興復旧作業は過酷な炎天下にも拘わらず、真面目に淡々と進められ、感激と尊敬の念に満ちている。

これから隊友会・家族会は情報を共有し災害派遣活動の自衛隊に対し様々な支援に取組むべきと考える。

派遣は実施された。広島では昨年 7 月、西日本を襲った豪雨により県内各地で甚大な災害が発生した。特に被災が酷かったのは、天応・小屋浦・坂・矢野・熊野町地区でこの地区だけでも、死傷者数約 100 名の住民が犠牲となり、また、土石流が国道 31 号線及び JR 呉線を塞ぎ、広島・呉間の交通は遮断され、住民は一時孤立したバニク状態となった。